

助け合いの大切さ学んで

被災中学招きサッカー

東日本大震災で被災した岩手県と宮城県の中学校のサッカー部を招いた復興支援サッカー交流が3日、総社市福井の総社北公園陸上競技場であった。被災地支援を続ける国際医療救援団体「AMD A」が助け合いの大切さを学んでもらおうと企画した。県内の3中学校も参加、約170人の選手らはさわやかな汗を流していた。

サッカー交流には、岩手県釜石市立釜石中▽同県大槌町立大槌中▽宮城県南三陸町立志津川中のサッカー部の2、3年生が参加した。

東日本大震災で被災した岩手県と宮城県の中学校のサッカー部を招いた復興支援サッカー交流が3日、総社市福井の総社北公園陸上競技場であった。被災地支援を続ける国際医療救援団体「AMD A」が助け合いの大切さを学んでもらおうと企画した。県内の3中学校も参加、約170人の選手らはさわやかな汗を流していた。

志津川中3年の及川大貴さん(14)は「震災

総社・170人交流

後、スポーツにも誰かの支えが大切と感じた。支援してくれた人に感謝したい」と笑顔で話した。同中サッカー部顧問の高橋健太郎さん(36)は「心に残る遠征にして岡山の中学生とも交流を続けた」と話した。AMD Aは「サッカーを通じてみんながつながっていると感じてほしい」と説明した。

【石井尚】



懸命に競り合う被災地と岡山の中
学生―総社市で

東日本
大震災